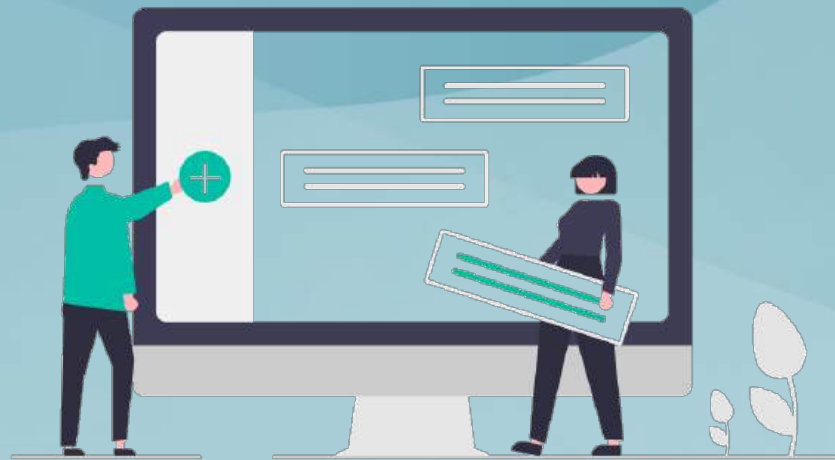


DX人材育成のステップを解説！

成功のポイントや成功事例も紹介



CONTENTS

目次



第一章

DX人材とは



第二章

DX人材を育成するメリット



第三章

DX人材育成のステップ



第四章

DX人材育成を成功させるためには？



第五章

DX人材育成の成功事例

第一章

DX人材とは

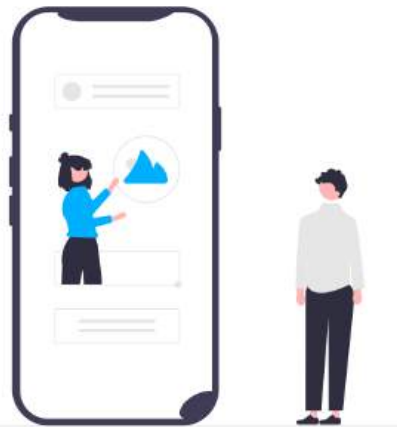
| DX人材とは



DX人材とは、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するためのスキルと知識を持つ人材のことです。DX人材はそのスキルと知識を活かし、組織の業務プロセスやビジネスモデルを変革します。デジタル化が急速に進む現代において、DX人材は企業が競争力を高め、持続的な成長を実現するうえで極めて重要な存在です。

| DX人材育成とは？

DX人材育成とは、DXを進めるためのスキルと知識を習得できるよう、人材を計画的に育成する意味合いで使われます。今やあらゆる組織において、デジタルに関する基礎～専門知識はもちろん、ビジネス戦略やリーダーシップ能力などを併せ持つ人材を育てる必要があります。そのため育成プログラムは知識教育、技術トレーニング、プロジェクトベースの学習など多岐にわたります。DX人材育成を通じ、企業は内部からDXを推進する力を強化し、競争力を高めることができます。



DX人材育成はおもに「リテラシー研修」と「専門スキル研修」の2つに大別されます。

リテラシー研修は全社員を対象としたもので、デジタル技術に対する基本的な理解、デジタルツールやデバイスの使い方などを学びます。その後、各部門での専門スキル研修に進み、DXを具体的に推進するための専門的な技術や実践力を習得します。

DX研修について詳しく知りたい方は、以下の記事も参考にしてみてください。

>> [リンク](#)



第二章

DX人材を育成するメリット

DX人材を育成するメリット

DX人材を自社で育成することは、企業側にどんな効果をもたらすのでしょうか。

実は、社内でDX人材を育成する取り組みは、企業にとって数多くのメリットがあります。ここでは3つのメリットについて解説していきます。

| 自社に最適なDX人材を確保できる

DX推進のためには高度なデジタル人材が必要不可欠ですが、DX人材は大きく不足しています。経済産業省の試算によると、2030年には最大で約80万人規模でDX人材が不足するというデータもあります。また、DX人材に求められる知識やスキルはDX推進状況や業界・業種によって異なるため、自社に最適なDX人材を外部から採用するのも、簡単なことではありません。その点、社内でDX人材を育成できれば、自社に最適なDX人材の確保につながりますし、DX推進を有効に進めることができます。

| DX推進を効率的に進められる

DX推進は一部の部署だけでなく、部署の垣根を越えて会社全体で進めなければならないプロジェクトです。各部署のさまざまな社員同士が連携し、日々の業務や社内ルールなどに配慮しながらデジタル化や課題改善、業務効率化を行う必要があります。その点、自社についてよく知る社員が中心となって進めるDX化は、各部署との連携が取りやすく効率的なDX推進につながります。このようにDX人材を社内で育成することで、自社に最適なDX化が進められるのは大きなメリットとなります。

| 企業の競争力を高められる

DX人材を育成するもう1つのメリットは、企業の競争力強化です。

DX人材は、デジタル技術を駆使して業務フローを最適化し、自動化を推進します。これにより、手作業によるエラーや時間浪費を削減し、生産性を向上させることができます。また、DX推進には新しい考え方やアプローチが求められるため、従業員の意識改革が促されます。このように既存の社内人材をDX人材へと育成することで大きなリターンが期待でき、結果として企業は、社会の変化に適応し、持続的な成長や市場における競争力の向上が可能となります。

第三章

DX人材育成のステップ

DX人材育成のステップ

ここからは、DX人材育成に取り組む際の具体的なステップを4段階にわけてご紹介します。

1) DXの目的を策定

DX人材育成の第一歩は、DXの目的を明確化することです。自社がDXを推進する理由やゴールイメージを具体的に設定しておくことで、人材育成の方向性が明確になります。例えば、業務プロセスの効率化、新しいビジネスモデルの構築、顧客体験の向上など、企業のビジョンに基づいた目標を設定します。これにより、育成する人材が具体的に何を達成すべきかを理解し、目的に沿ったスキルと知識を習得することができます。社内のニーズや課題を把握し、どのようなDX人材を育成したいのか、どこまでのリテラシーレベルまで育成するのかといった目標設定は、自社にとって本当に必要なDX研修を実現するための最初の重要なステップとなります。



2) 人材の要件定義とキャリアパス設定

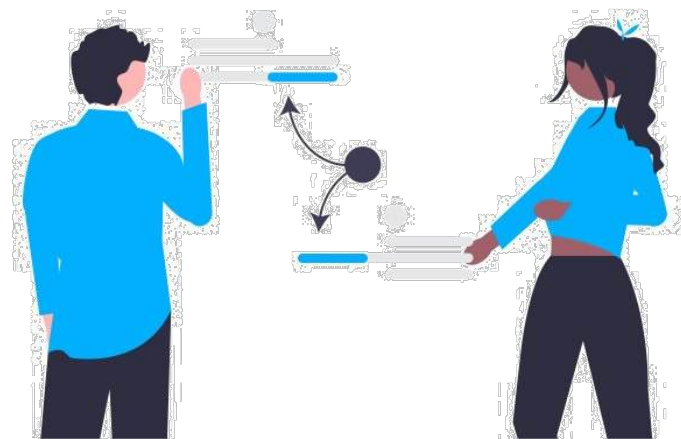
次に、DX人材の要件定義を行い、キャリアパスを設定します。先に定めたDXの目的を踏まえて、どのようなスキル・素養を持った人材が自社のDX推進に必要なかを洗い出しましょう。さらに、育成対象者がどのように成長し、どのポジションに進むかを明確に示すキャリアパスを設定します。キャリアパスは短期的な目標と長期的なビジョンを含むもので、技術スキルの向上だけでなく、リーダーシップやビジネス理解の深化も考慮します。明確なキャリアパスを設定することで、育成対象者は自分の成長プロセスを理解し、モチベーションを高め、目標達成に向けた具体的なステップを踏むことができます。

3) 育成対象者を決定

DX人材育成の第3ステップは、育成対象者の決定です。企業内でDXを推進するにあたり、適切な人材を選定することが必要となります。対象者は、技術的なスキルや知識だけでなく、変革を推進する意欲やリーダーシップを持つ人物であることが望まれます。また、部門横断的に人材を選定することで、組織全体でのDX推進が効果的に行われます。適切な人材を選定することで、DXの成功確率が大幅に向上するため、ここも重要なステップとなります。

4) 育成計画の立案・実施

育成計画の立案と実施は、DX人材育成の本丸というべきステップです。具体的な育成プログラムを設計し、知識習得や技術トレーニング、実践的なプロジェクトなど多様な学習機会を提供します。計画には、短期的な目標と長期的な目標を含め、進捗を定期的に評価し、必要に応じて調整を行います。実施段階では、対象者が実際の業務にDXの知識を適用できるようサポートし、リアルタイムでのフィードバックを行うことで、効果的なスキル習得を促進することができます。



第四章

DX人材育成を成功させるためには？

DX人材育成を成功させるためには？

DX人材育成を成功させるためのポイントを3つご紹介します。

●社内体制を整える

DX人材育成を成功させるためには、社内体制の整備が欠かせません。まず、経営層のコミットメントが重要です。経営層がDXの重要性を理解し、積極的に支援することで、全社的な取り組みが推進されます。また、専門のDX推進チームを設置し、明確な役割と責任を定めることが必要です。さらに、社内の各部門と連携し、育成プログラムの進捗を共有することで、組織全体での協力体制が築かれます。これにより、DX人材育成が効果的に進められます。

●継続的なフォローアップや評価

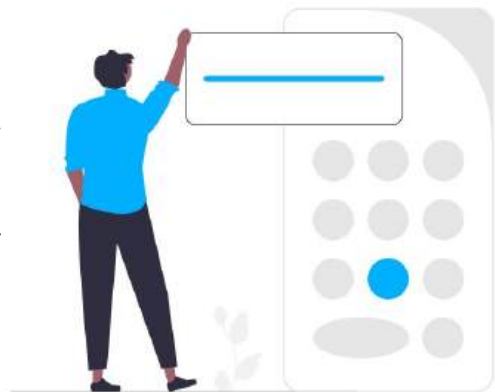
2つめのポイントとしては、継続的なフォローアップと評価があります。インプットした内容を実践に生かしてはじめてDX人材育成の意味があります。学んだ内容を実務へ適用・活用できるよう、フォローアップやコーチングを提供し、社員の成長を継続的に支援しましょう。また、プログラム終了後も、対象者のスキルや知識の維持・向上を支援するために、定期的なトレーニングやフォローアップセッションを実施します。また、育成の成果を評価するための指標を設定し、定量的かつ定性的に評価を行うことが重要です。

DX人材育成を成功させるためには？

DX人材育成を成功させるためのポイントを3つご紹介します。

●外部ツールをうまく活用する

DX人材育成のための教育やトレーニングを自社内ですべて準備できる企業はそう多くはないはずです。そのため、外部ツールやリソースの活用も、DX人材育成の成功には効果的です。専門的なオンラインコースやウェビナー、業界のベストプラクティスを学ぶプラットフォームを利用することで、最新の知識とスキルを効率的に習得できます。また、全社的な展開となるDX人材育成では、企業が社員の学習進捗を把握しておく必要があります。eラーニングに使われるLMS（Learning Management System：学習管理システム）なら、社員1人ひとりの学習進捗や理解度、獲得スキルを可視化できるため、それに基づいた適切なフォローやフィードバックを通じて、DX人材育成を実現することが可能です。



LMS（学習管理システム）なら デジタル・ナレッジの

Knowledge Deliver（ナレッジデリバー）



導入実績2000以上を誇る国内有数の統合型eラーニングプラットフォーム『Knowledge Deliver』。常に機能拡張をおこない、新しい学習環境に対応しつづけると共に、カスタマイズ開発に強みを持ち、お客様が目指されるDX人材育成の実現を力強くサポートします。

[詳細・導入事例はこちら](#)

DX研修に最適！ KnowledgeDeliverの特長

- ✓ 教材作成・学習・運用管理まで、これ1つでオンライン学習環境を整備
- ✓ 動画教材作成も、既存のoffice資料の教材化もWebベースで簡単
- ✓ 従業員1人ひとりの学習進捗・理解度・獲得スキルを明確管理
- ✓ 従業員がマイページで自身の学習進捗等を確認
- ✓ 社内eラーニングだけでなく、外部ウェビナーも含むあらゆる学習履歴を一元管理
- ✓ 人事データベースやタレントマネジメントシステムとの連携
- ✓ 次世代の学習証明「オープンバッジ」対応、獲得したスキルを世界標準で見える化
- ✓ ニーズに応じた柔軟なカスタマイズ開発。

[詳細・導入事例はこちら](#)

DX人材育成のための教材コンテンツもご用意！

情報セキュリティ、コンプライアンス、ハラスメント、ビジネスマナーといった汎用的なスキルやリテラシー教育には、定評のある教材会社や学習コンテンツベンダの教材を利用するのが効率的です。デジタル・ナレッジでは、多数の教材会社・教育会社とパートナーシップを結び、優れた教材、豊富なコンテンツを弊社システムやサービスに搭載して幅広く提供しております。代表的なものをご紹介します。

【提供教材】サイコム・ブレインズ様

会計・経理から人事・労務・法務といった専門職種向け教材や、マーケティング・営業などの営業力向上、マネジメントや思考法などのビジネススキル、テクノロジーやデータスキルなどのDX化など、ビジネス領域を幅広く支援するビジネスマスターズ®の教材をご提供。

詳細は
コチラ

【提供教材】JTP様

デジタルテクノロジー活用に関する基礎講座をはじめ、クラウド技術の基礎講座、IT基礎力を問う「ITパスポート」資格取得対策講座、さらにはIT技術者向けのビジネスマナー講座等をご提供。組織のDX推進に向けた取り組みに課題をお持ちの方におすすめです。

詳細は
コチラ

第五章

DX人材育成の成功事例

DX人材育成の成功事例

弊社のeラーニングサービスを活用して、DX人材育成を実現された導入事例をご紹介します。

伊藤忠テクノソリューションズ様



従業員18,000名に対するDX推進基盤を実現

「誰もが自由に情報を発信・受講できる情報共有基盤の構築」を目的に、デジタル・ナレッジのeラーニングシステムを導入。コンテンツ作成が容易なため、DX推進に必要な不可欠な教育コンテンツの内製化、自由で活発な情報発信基盤の実現をサポートしています。

詳細は
コチラ

マキチエ株式会社様



OJT教育のDX化による社内リスキリングと売上拡大事例

拠点間における教育品質のばらつきや古い教育手法に課題をお持ちだったマキチエ株式会社。デジタル・ナレッジのeラーニングシステム導入により、OJT教育の標準化・効率化などを実現。本教育プログラムをクリアしたスタッフが売上1位を記録するなど大きな成果を上げています。

詳細は
コチラ

まとめ

国内で圧倒的に不足しているDX人材。今後、ますます多くの企業で、DX人材育成の取り組みが進められていくものを考えられます。DX人材育成に欠かせないオンラインプラットフォームや教材コンテンツなどについて詳しく知りたい方は、ぜひお問い合わせください。



お気軽にご連絡くださいませ

フォームから質問

お問い合わせ

<https://www.digital-knowledge.co.jp/inquiry/>

電話で質問

導入のご相談 **050-3628-9240**

その他 **03-5846-2131**

サイトを見る

デジタル・ナレッジ

検索



デジタル・ナレッジ